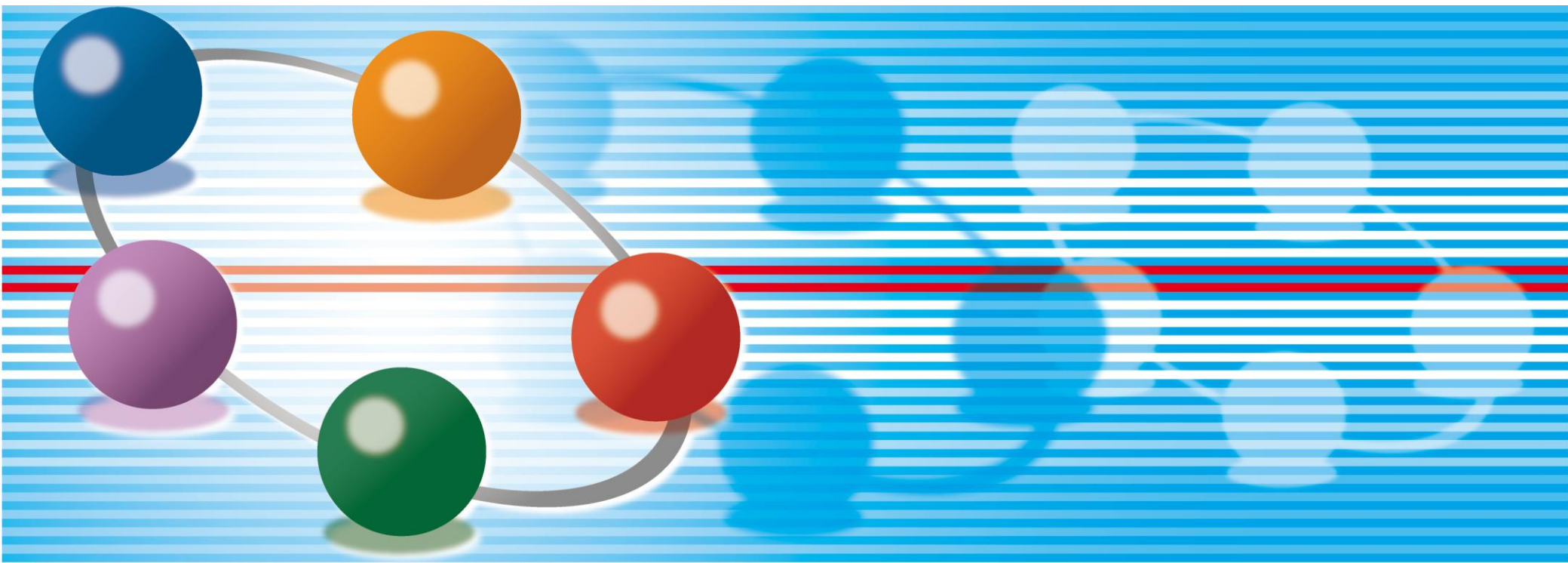




# 株式会社カワタ 2014年3月期第2四半期決算説明会資料

2013年11月25日



# 目次

---

## ご挨拶

I. 会社概要	P. 3
II. 当社の特徴	P. 15
III. 決算概要	P. 30
IV. 今後の経営戦略	P. 38

# ご挨拶

---

- 当社は「粉体・粒体」省力化・合理化 加工機器のリーディング カンパニー
- 6月24日にJASDAQより東証2部に上場
- 「モノづくり」の原点に立ち返り、「混ぜる」「運ぶ」「計る」「乾かす」「調える」の5つのコア技術を蓄積
- 「現場」「原理」「原則」の3ゲン主義を基本に、現場第一を中心に据えた経営を邁進



# I . 会社概要

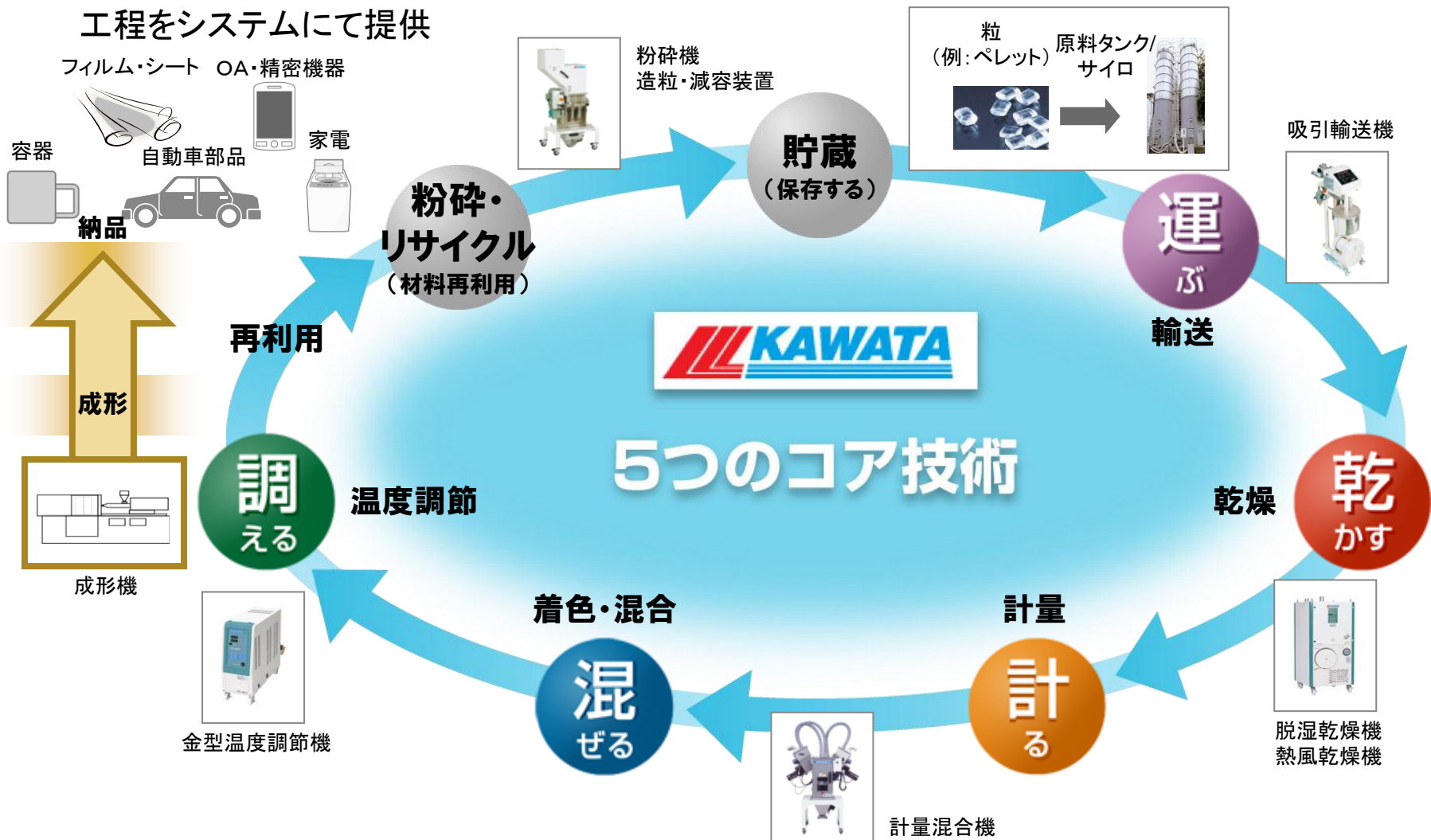


# 1. 会社概要

会社名	株式会社 カワタ	Kawata MFG. Co.,Ltd.
本社	大阪市西区阿波座1丁目15番15号(第一協業ビル)	
創業	1935年9月10日	
設立	1951年7月13日	
事業内容	プラスチック成形機周辺装置等のプラスチック製造機器の製造、販売及びこれに関連するシステムエンジニアリングその他のサービス	
代表者	白井 英徳	
売上高	15,058百万円 (2013年3月期、連結)	
経常利益	682百万円 (————— // —————)	
当期純利益	192百万円 (————— // —————)	
資本金	977百万円 (————— // —————)	
従業員数	720名 (————— // —————)	
子会社数	16社(国内5社、海外11社)(2013年9月末現在) ※カワタエンジMFG.SDN.BHD.は平成23年5月に解散を決議し、現在手続き中であります。	

## 2. 事業内容: プラスチックを主とする製品製造工程の概要

- 事業内容: プラスチック成形機周辺装置等のプラスチック製造機器の製造、販売及びこれに関連するシステムエンジニアリングその他のサービス
- 5つのコア技術(混ぜる・運ぶ・計る・乾かす・調える)をもとにプラスチック製品製造における成形加工工程をシステムにて提供



### 3. 子会社(2013年9月30日現在)

#### ● 国内外に16社の子会社

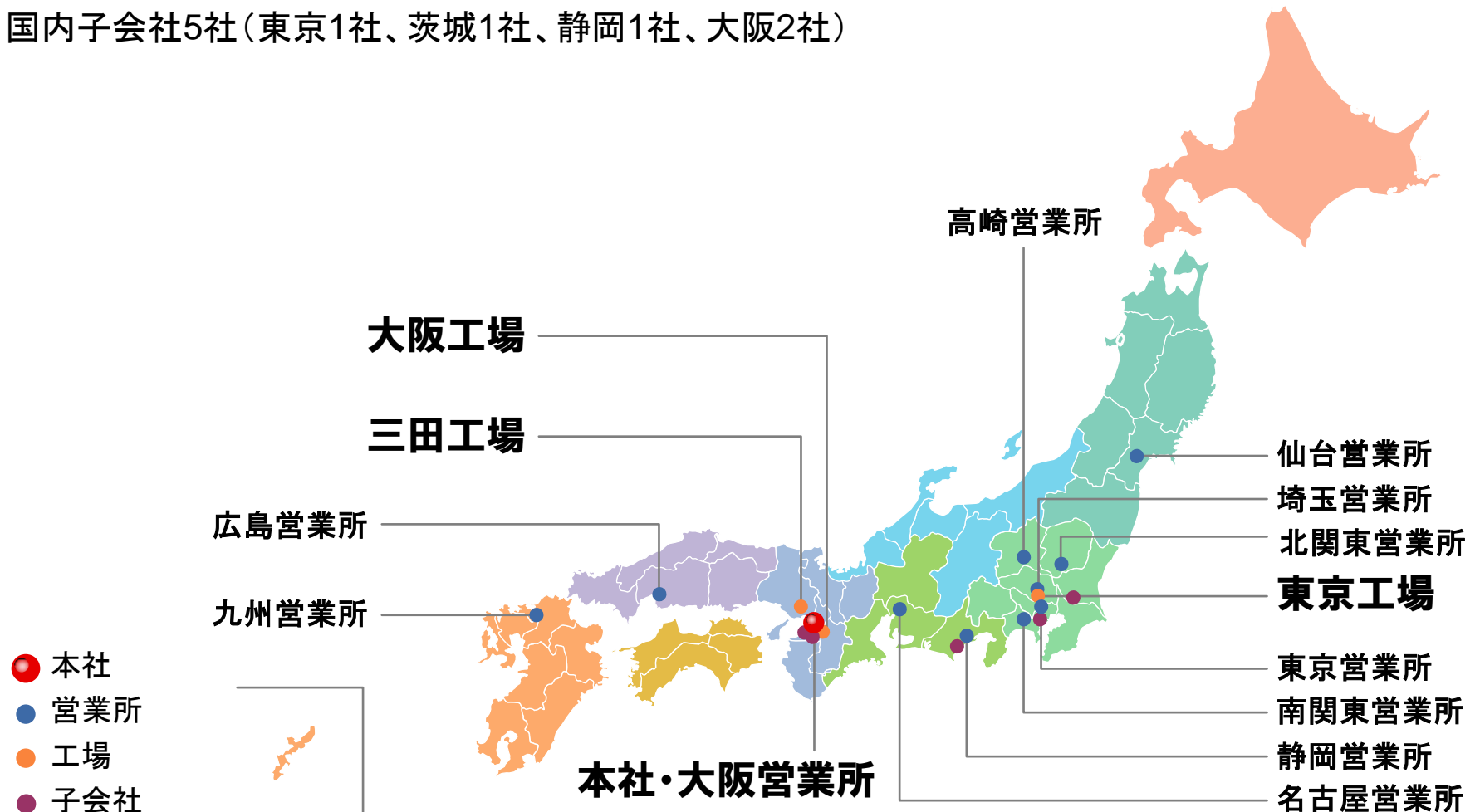
日本	株式会社カワタテクノサービス	プラスチック製品製造機器の設計・保守・サービス・据付工事および販売
	株式会社サーモテック	金型温度調節機器、水関連機器の製造および販売
	エム・エルエンジニアリング株式会社	プラスチック製品製造機器の製造、販売およびサービス業務
	株式会社レイケン	金型温度調節機器、水関連機器の販売およびサービス業務
	株式会社カンゲン	水関連機器の製造および販売
北米	カワタU.S.A.INC.	アメリカ合衆国におけるパートナーシップに対する投資(持分50%)
東南アジア	カワタパシフィックPTE.LTD.(シンガポール)	プラスチック製品製造機器の販売およびサービス業務
	カワタエンジMFG.SDN.BHD.(マレーシア)※	プラスチック製品製造機器の販売およびサービス業務
	カワタタイランドCO.,LTD.(タイ)	プラスチック製品製造機器の販売およびサービス業務
	カワタマーケティングSDN.BHD.(マレーシア)	プラスチック製品製造機器の販売およびサービス業務
	PT.カワタイインドネシア(インドネシア)	プラスチック製品製造機器の製造および販売
	レイケンタイランドCO.,LTD.(タイ)	水関連機器の製造および販売
東アジア	川田機械製造(上海)有限公司(中国)	プラスチック製品製造機器の製造、販売およびサービス業務
	冷研(上海)貿易有限公司	金型温度調節機器、水関連機器の販売およびサービス業務
	川田機械香港有限公司(香港)	プラスチック製品製造機器の販売およびサービス業務
	川田国際股份有限公司(台湾)	プラスチック製品製造機器の販売およびサービス業務

※カワタエンジMFG.SDN.BHD.は平成23年5月に解散を決議し、現在手続き中でありませ

#### 4. 事業ネットワーク

### (1) 事業ネットワーク(国内)

- 国内に11のカワタ営業所
- 大阪・三田に生産工場、東京工場(埼玉県川口市)にメンテナンス拠点を配置
- 国内子会社5社(東京1社、茨城1社、静岡1社、大阪2社)

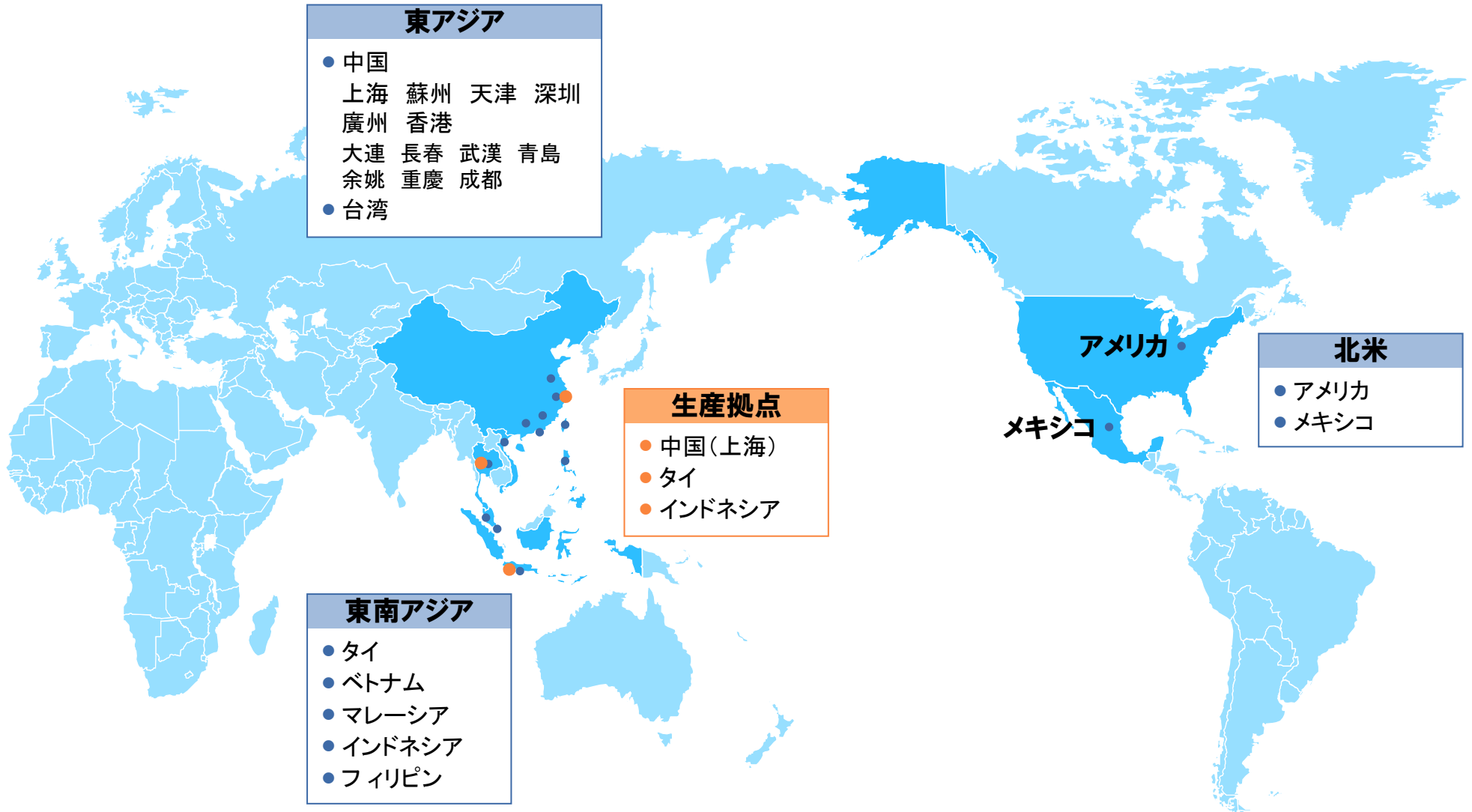




#### 4. 事業ネットワーク

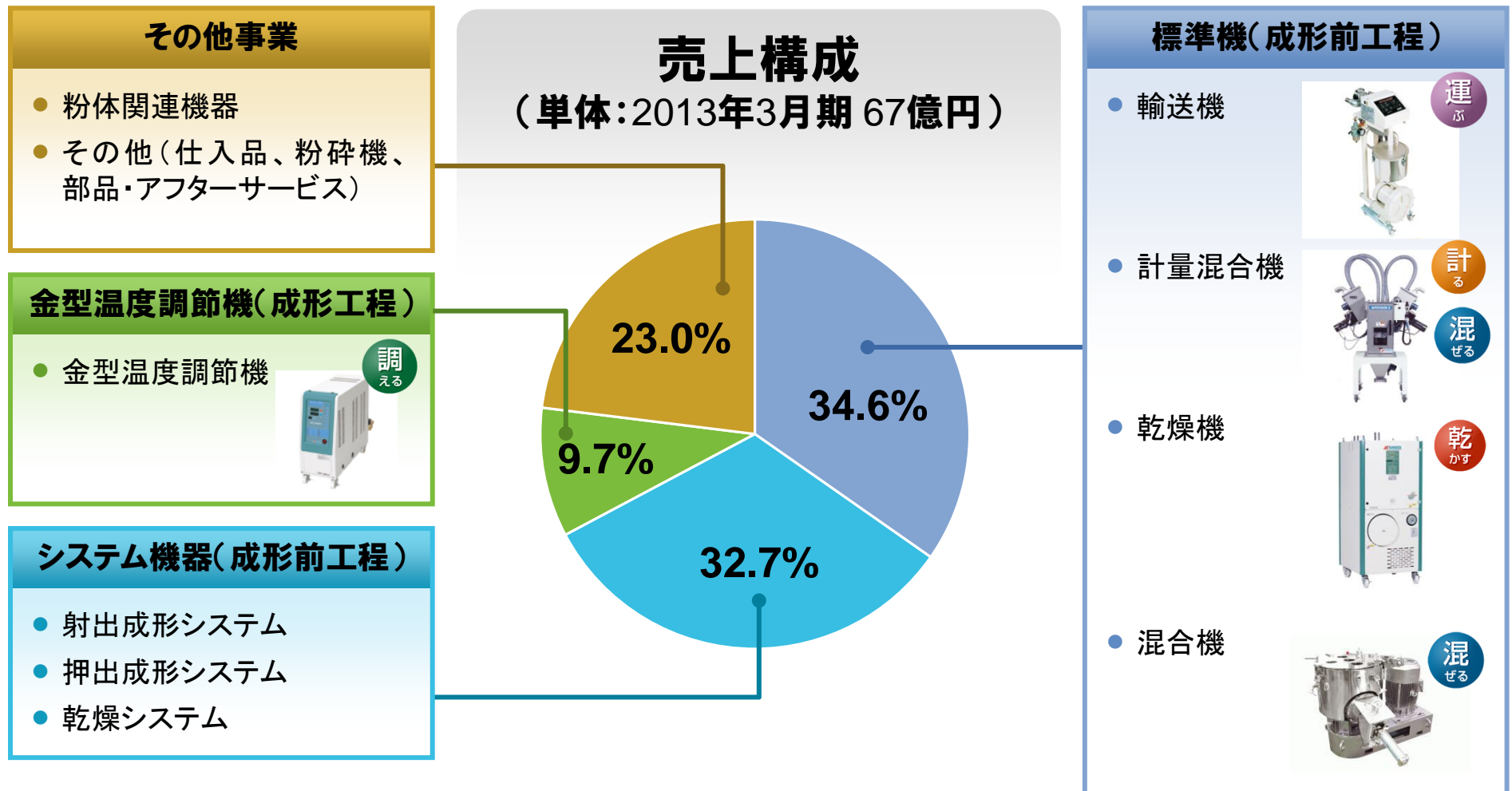
## (2) 事業ネットワーク(海外)

- 東アジア・東南アジア・北アメリカに販売・製造ネットワークを展開



## 5. 事業構成(単体)

- プラスチック成形合理化機器関連事業、輸送・計量・乾燥・混合がコア技術
- コア技術を有機的に組合せた独自のハンドリングによるシステム装置が主力

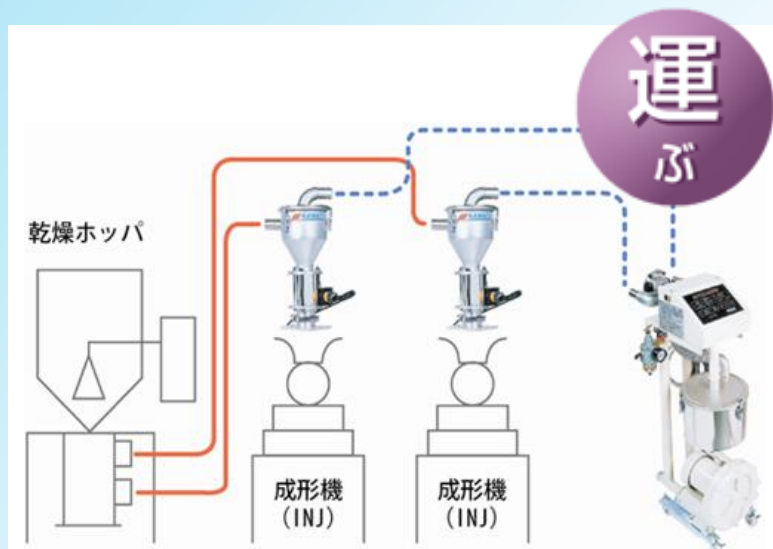


## 5. 事業構成

### (1) 輸送機/計量混合機(標準機)

輸送機:工場自動化の基本。限られたスペースで効率よく・無駄なく材料を輸送

1962年、オートローダーを生産、実用新案を取得



計量混合機:ペレット・顔料・添加剤・粉碎材等を定量計量した後、着色・混合する装置

1970年、米国より技術を導入、日本で初めて計量着色混合機を生産



## 5. 事業構成

### (2) 乾燥機/混合機(標準機)

乾燥機: 樹脂ペレットは水分を含んでおり、一般的に精密成形時に不良率が高くなるため、成形前の乾燥が必要

1973年ドイツより技術を導入、日本で初めて脱湿型の乾燥機を生産



混合機: スーパーミキサーは様々な素材を短時間で均質な混合分散が可能

1962年より生産、世界で6,500台の販売実績

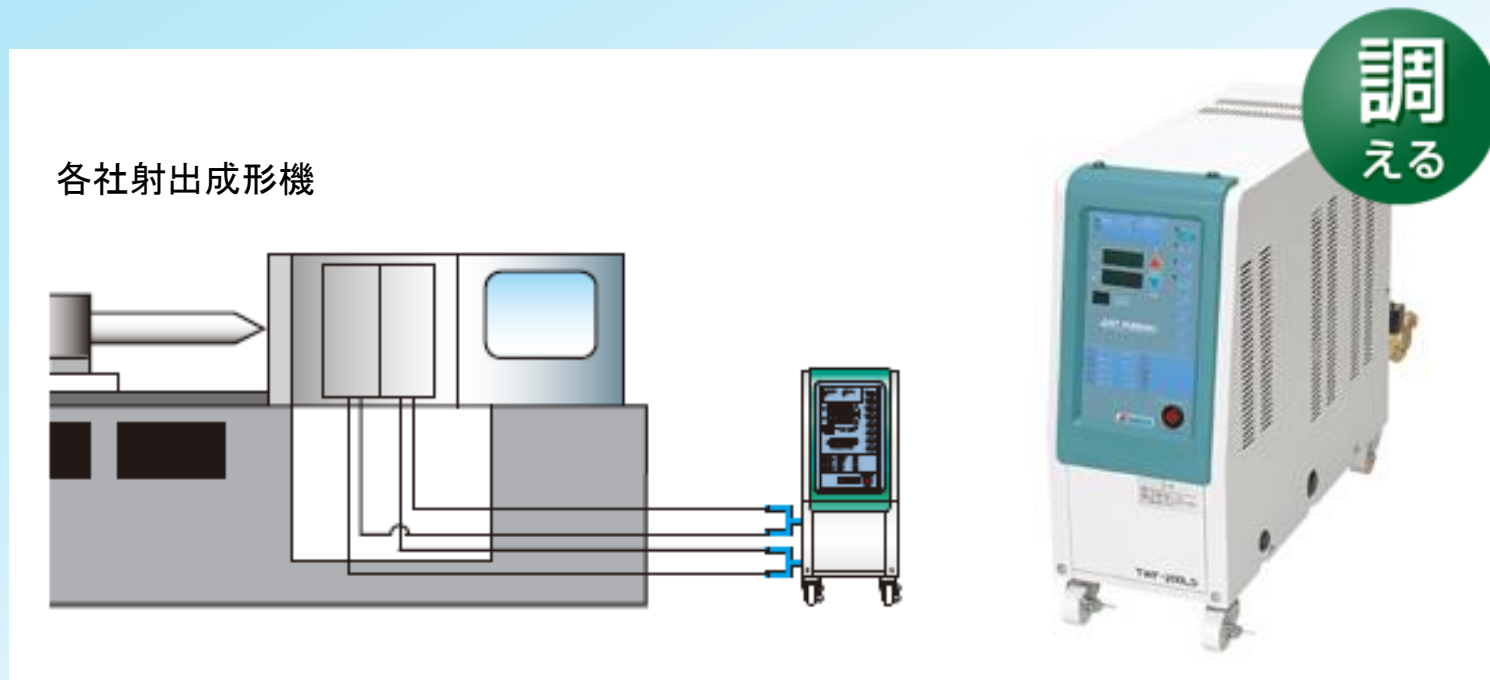


## 5. 事業構成

### (3) 金型温度調節機

成形品の品質にもっとも影響を与えるのは金型。高精度な金型加工と同時に金型内の温度管理を徹底。高品質の製品の製造を可能に

30年・世界 40ヶ国・販売台数 7万台を超える実績のロングセラー



## 5. 事業構成

### (4) その他(粉体関連機器/粉碎機/部品・アフターサービス)

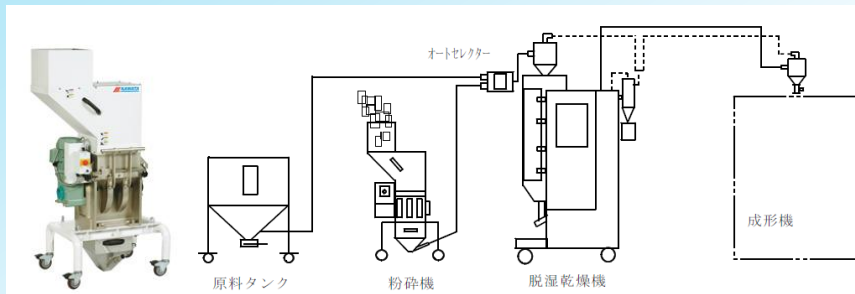
粉体関連機器：高精度  
粉体供給装置ファインズ  
ピット、毎時100グラム  
～1キログラムと少量で  
計量が困難な高擬集性  
の微粒子粉体を高精度  
に計量



部品：マグネットセパレーター(部品)：磁力の力  
でペレットや粉碎物内の鉄片、鉄粉等の異物を  
除去



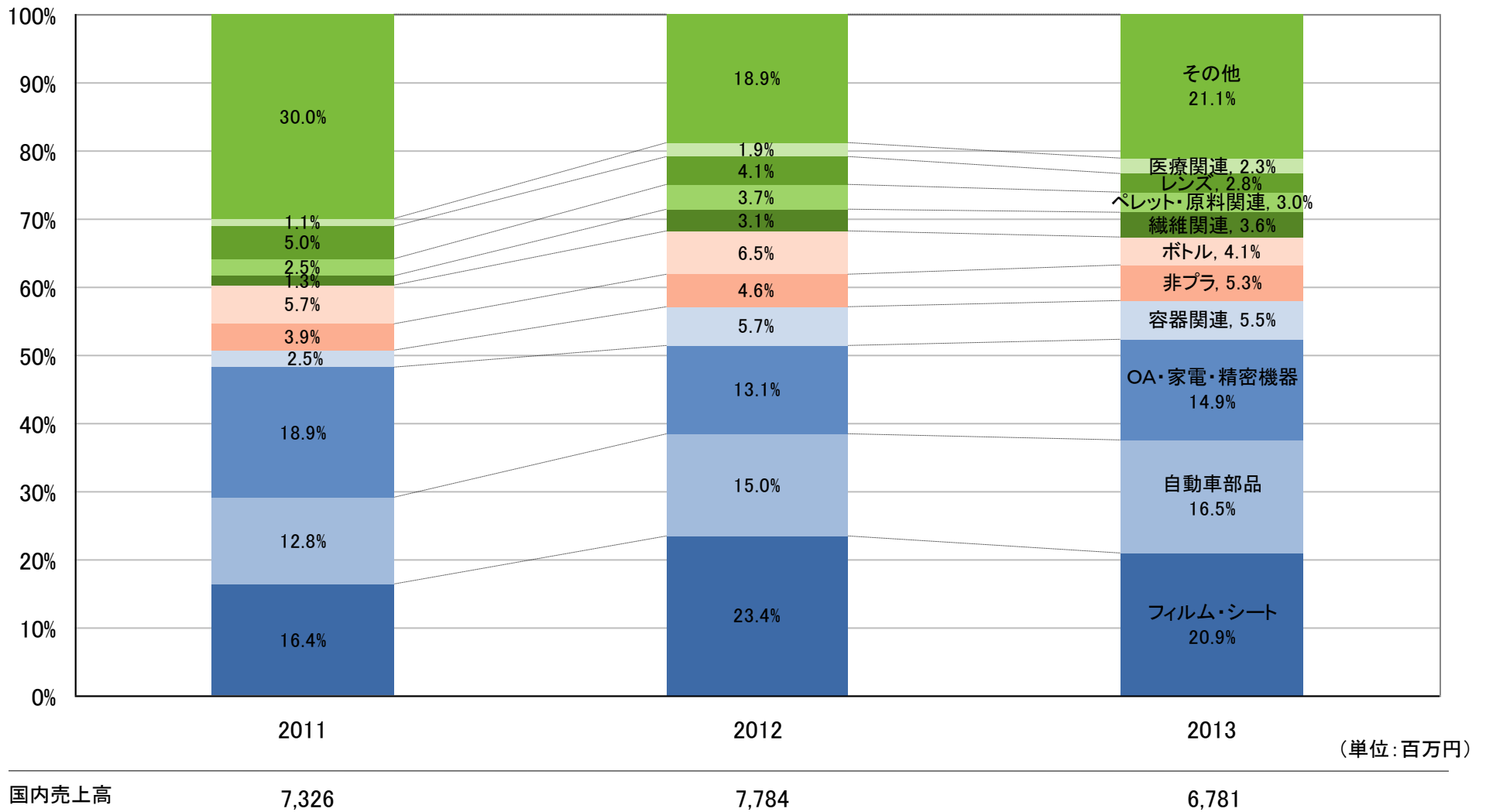
粉碎機：射出成形加工後のランナーや成形不良  
品をリサイクルや減容化を目的に粉碎



**24時間365日受付のアフターサービス：**

平日9時～18時までは最寄の営業所、各サービス拠点にて対応させていただき、平日 18時以降～翌9時 及び 土・日・祝日 9時～翌9時(24時間)はフリーダイヤルにて専任のスタッフがお問い合わせの受付をさせていただいております

## 6. 主な販売業界





## Ⅱ. 当社の特徴

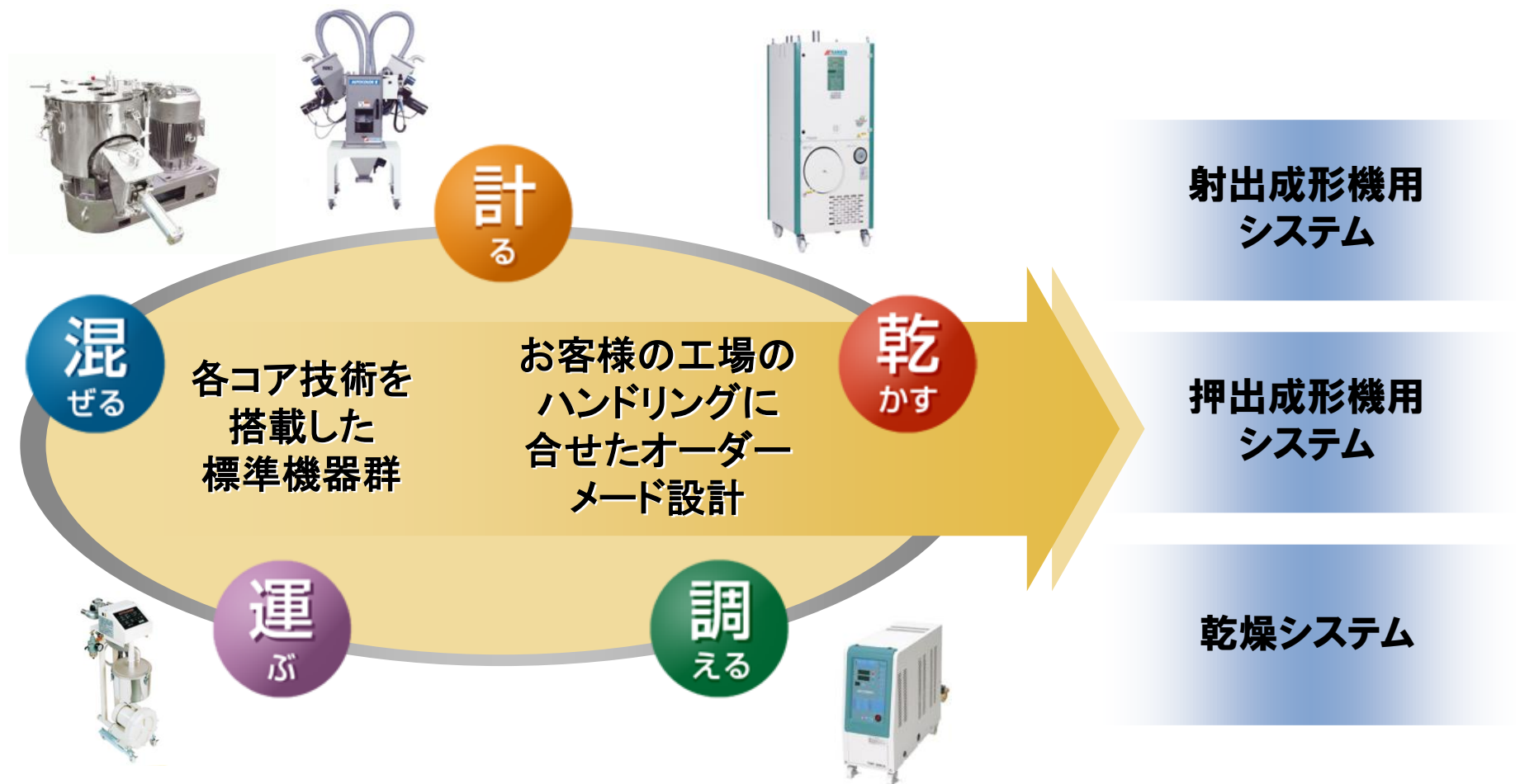
1. コア技術を有機的に結合した独自システム
2. 技術を切り拓くパイオニア
3. アジアを中心としたグローバル展開





# 1. コア技術を有機的に結合した独自システム

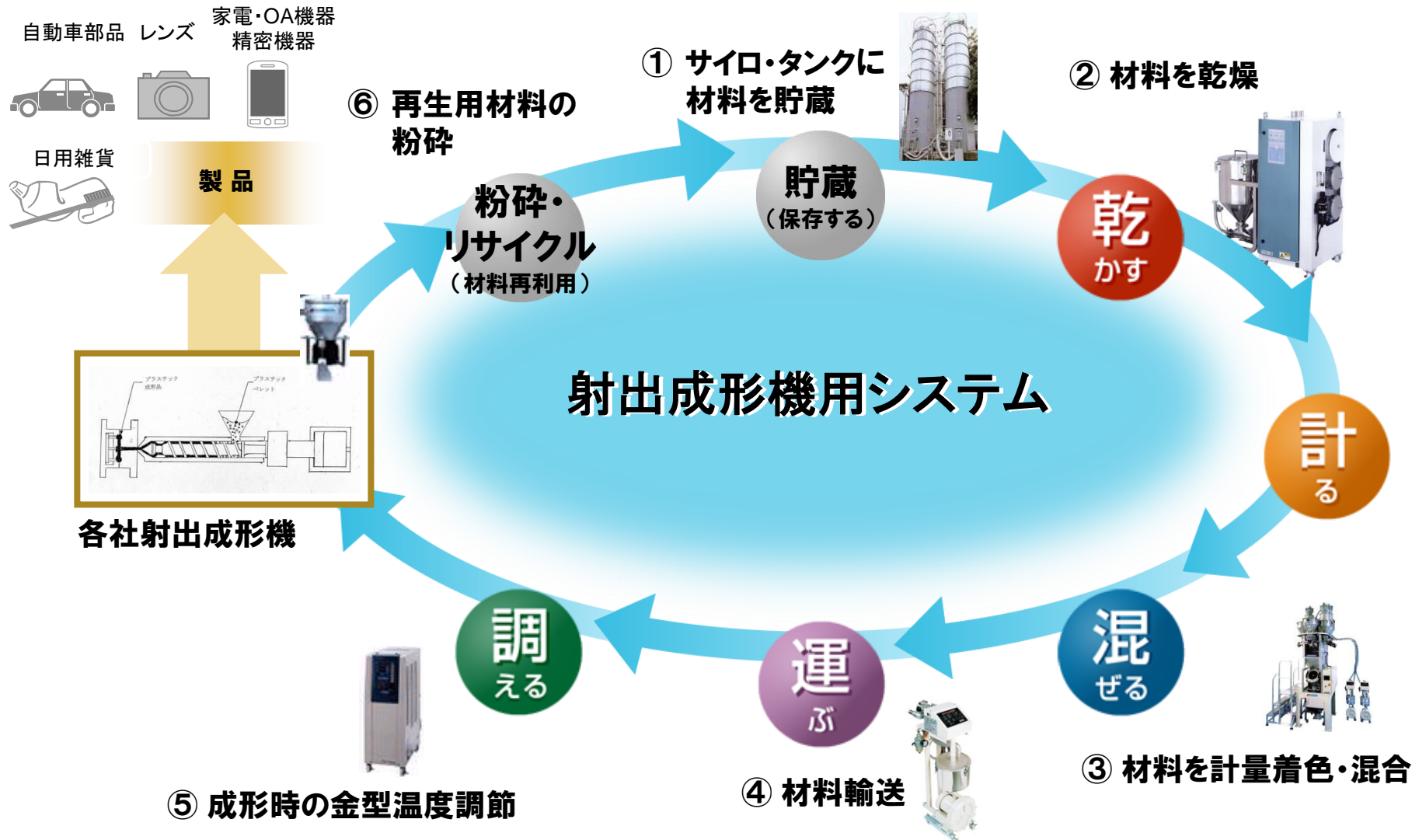
- プラスチック製品製造業の無人化・FA化を実現、生産性を飛躍的に向上、高度化・多様化するユーザーニーズに対応



# 1. コア技術を有機的に結合した独自システム

## (1) 射出成形機用システム①

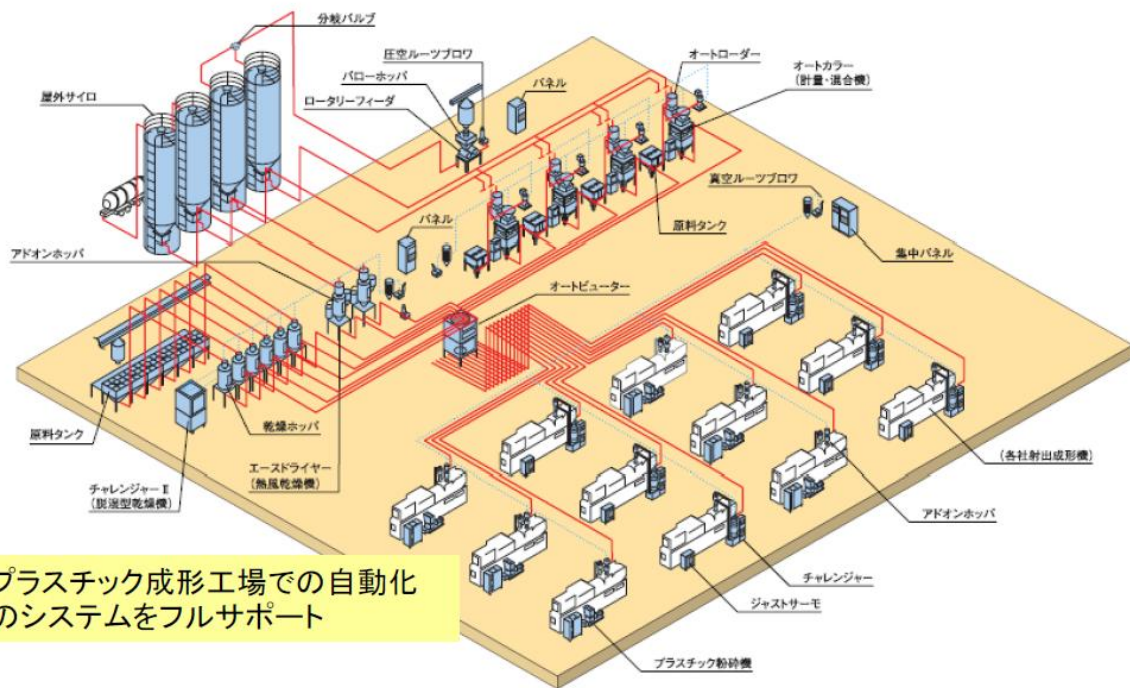
- 高度化するユーザーニーズに対応するセレクトロニックシステム(粒子)
- プラスチック材料を無駄なく効率的に使用するための機器をトータルに提案



# 1. コア技術を有機的に結合した独自システム

## (1) 射出成形機用システム②

- 高度化するユーザーニーズに対応し、原料の受入工程から、各装置を有機的に結合したカワタ独自のセレクトロニックシステム導入により、プラスチック成形工場の無人化・FA化を実現



### A社導入例

- 成形工場の無人化・FA化を実現
- オートビューターシステムの採用により各種装置の切替がリアルタイムであることを可能にし、多品種変量の稼働効率を工場
- 乾燥システム・計量混合システムなどに汎用性を実現

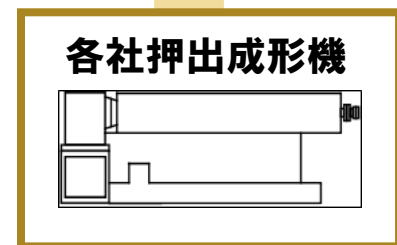
# 1. コア技術を有機的に結合した独自システム

## (2) 押出成形機用システム①

- 徹底した生産合理化を実現する完全自動配合システム(粉体)
- 原料の受入れ装置から集中乾燥装置、集中混合装置、分配供給装置を連動自動化。成形工場におけるムラ、無理、無駄を排除



製品



押出成形

① サイロ・タンクに  
材料を貯蔵



貯蔵  
(保存する)

② 材料を輸送・計量

運  
ぶ



押出成形機用システム

計  
る

乾  
かす

③ 材料を混合・乾燥

混  
ぜる

調  
える

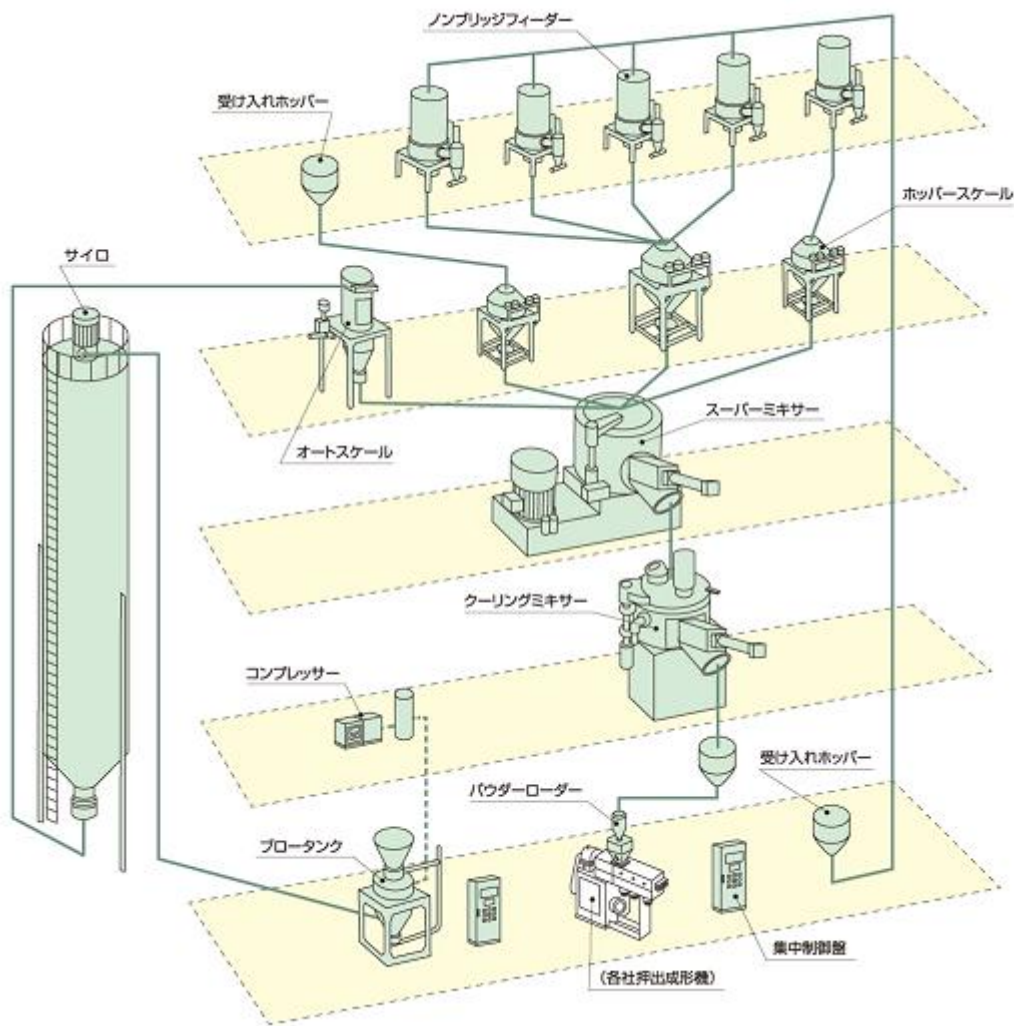
④ 温度調節(冷却・加熱)



# 1. コア技術を有機的に結合した独自システム

## (2) 押出成形機用システム②

- 徹底した生産合理化とクリーンな工場づくりを実現



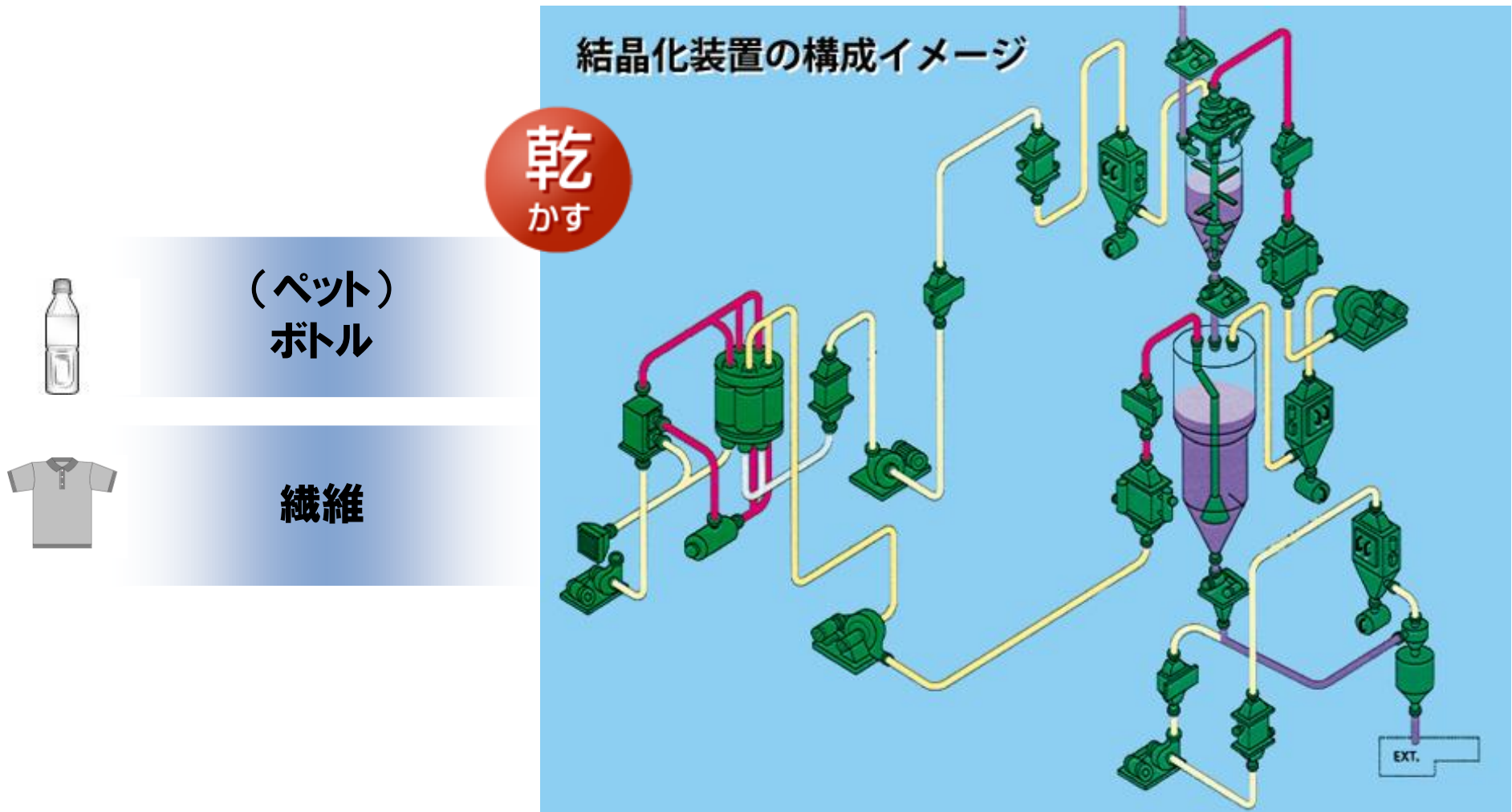
### B社導入例

- 合理化・自動化のための機械・装置をシステムとして組み合わせ、原料の受入、貯蔵から最終工程までの無人化を実現
- 各種配合を自動的に行うことによって、徹底した生産合理化とクリーンな工場づくりを実現

# 1. コア技術を有機的に結合した独自システム

## (3) 乾燥システム

- 時代の流れにつれ樹脂乾燥装置に求められる機能も変化。多様化に対応した最適乾燥システム



## 1. コア技術を有機的に結合した独自システム

### (4) システム強化にむけた具体的取組み

- ユーザーの意見をくみ上げる営業部門、その情報を反映し設計する技術開発部門、そしてものづくりの拠点である生産部門が連携した情報システムを構築
- お客様の深化するニーズに応えるため、生産現場・技術開発知財部門が連携、さまざまな取組を実施

#### 三田工場 テストセンター

- 実機での各種テストによって、定量的で最適な条件を見出します。
- 計画→テスト→検証を繰り返し解決できるシステム、提案を実施



#### テスト設備



#### 大阪工場 平成24年5月移転

- 三田工場に次ぐ、国内の主要工場として、水周り機器の拡充、生産の効率化、開発環境の整備を実施
- 生産能力を1.5倍に増強。土地4,628㎡総床面積5,429㎡

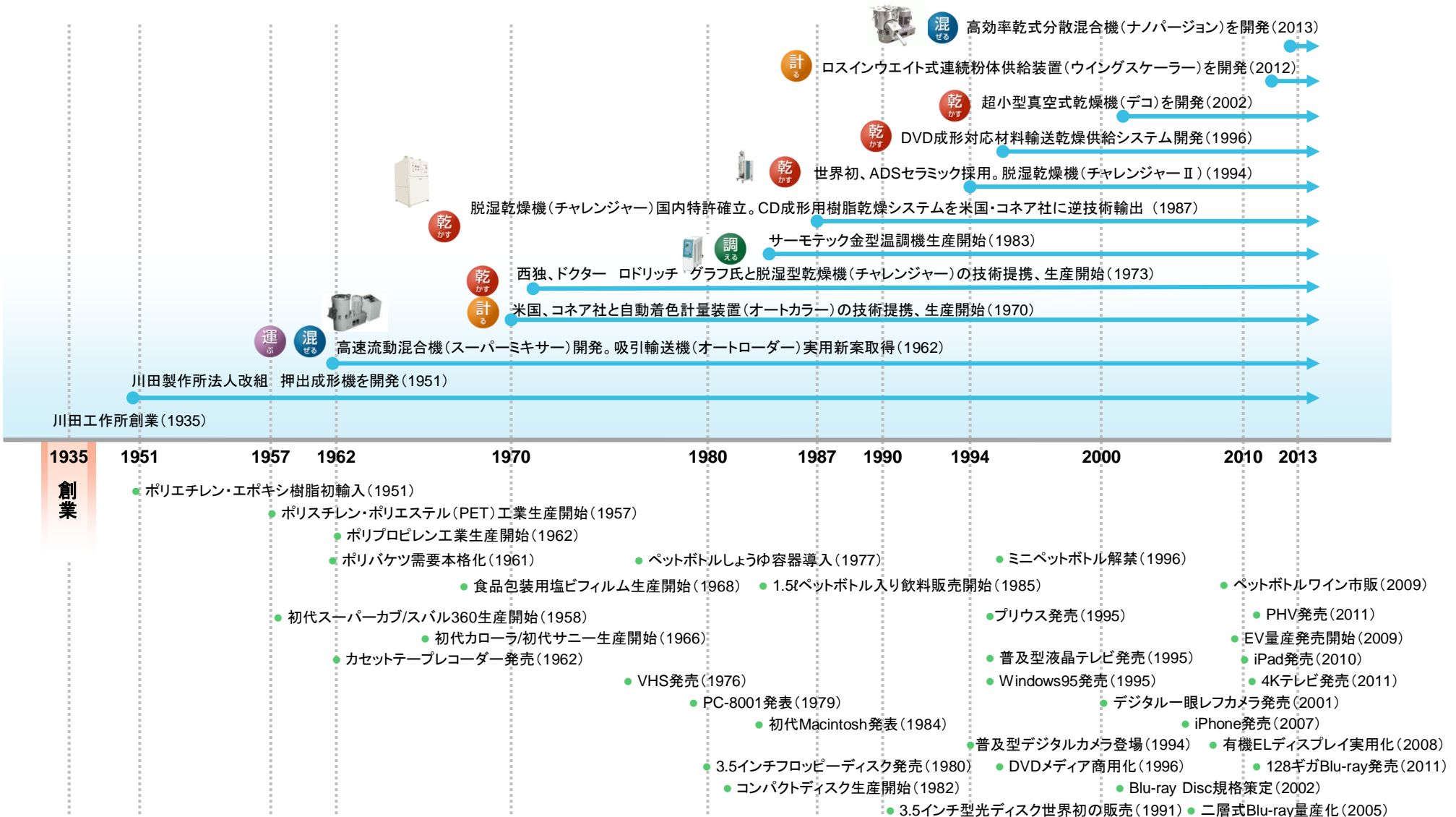


金型温度調節機  
製造ライン



## 2. 技術を切り拓くパイオニア

- 1935年の創業以来、業界のフロントランナーとして時代の要請に沿ったトップレベルの製品を開発

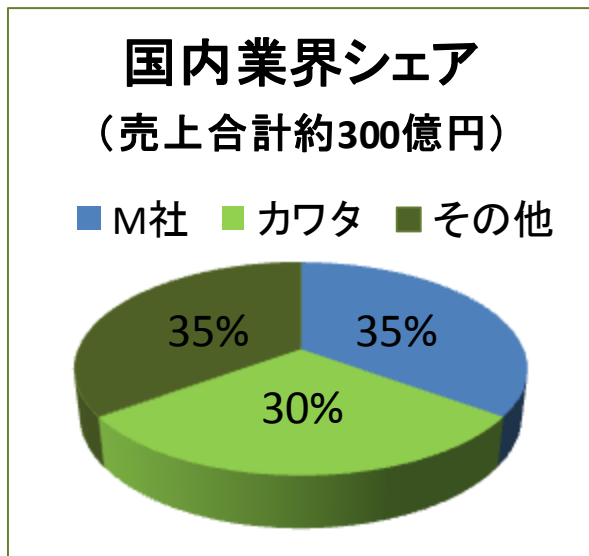




## 2. 技術を切り拓くパイオニア

### (1) 圧倒的な業界シェア

- 国内プラスチック製造装置合理化システムにおける主な製品のシェア



**液晶画面関連製品**  
(フィルム、シート)等

業界  
No.1

業界  
No.1

**レンズ関連製品**  
(携帯電話関連レンズ等)

**ペットボトル関連製品**  
(ペットボトル等)

業界  
No.1

業界  
No.2

**プリンター関連製品**  
(カラートナー等)

**自動車関連製品**  
(バンパー、ハンドル、部品等)

業界  
No.2

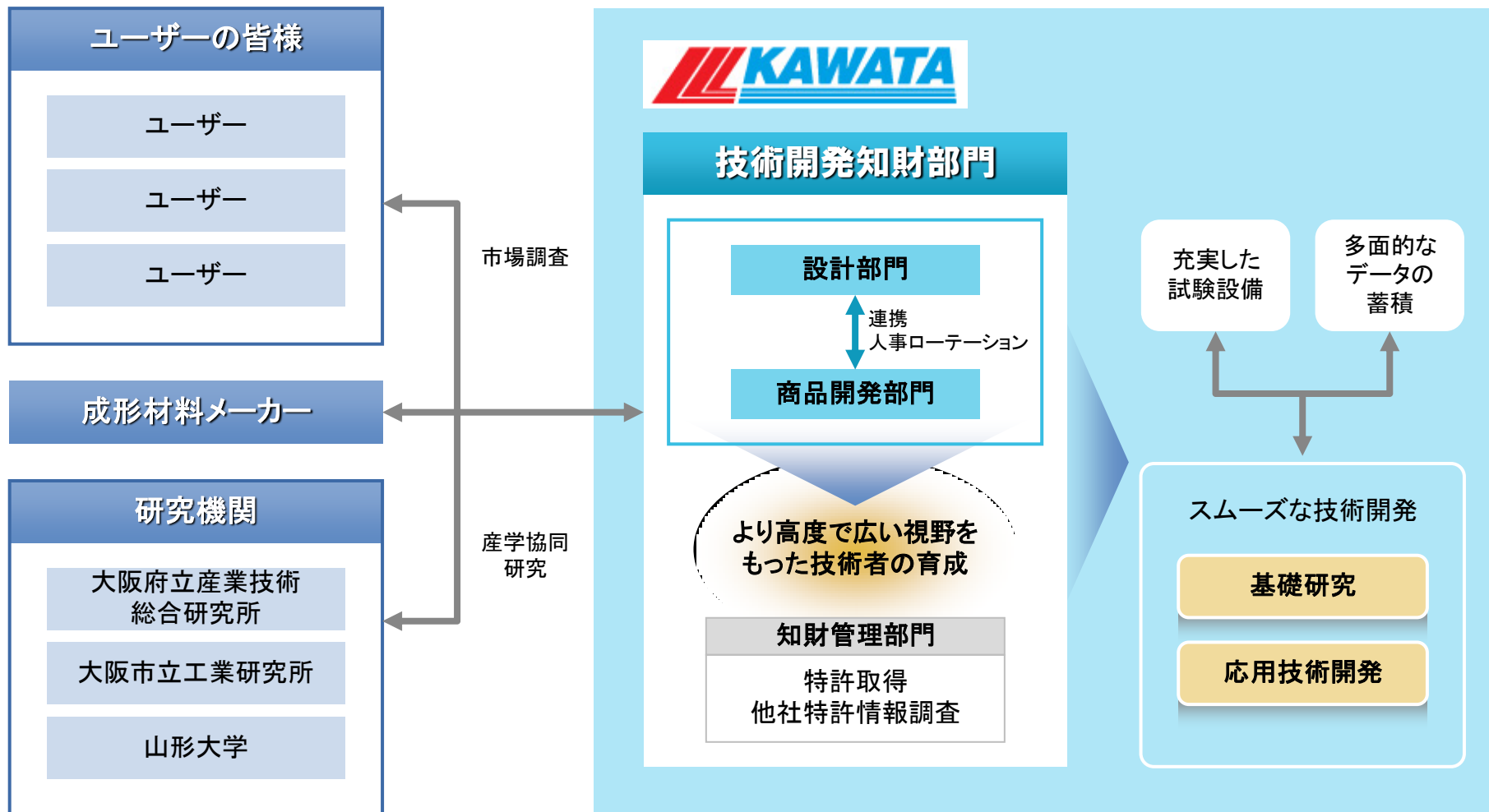
出所: 経済産業省プラスチック製品統計年報

弊社資料

## 2. 技術を切り拓くパイオニア

### (2) データベース化・ノウハウの共有～技術開発知財部門

- 顧客満足度を最優先に考えた技術開発の源泉としてプロセス技術を蓄積



## 2. 技術を切り拓くパイオニア

### (3) 蓄積された技術をベースに新規分野に進出

#### 粉体関連機器 (医薬品・食品・化粧品用など)



コア技術「混ぜる」「運ぶ」「計る」「乾かす」「調える」を更に進化させ、これらを複合的に活用したシステムエンジニアリングにより、あらゆる業界の皆さまのソリューションにお答えしています

#### 高精度微量粉体定量供給機 「ファインズビット」



超微粒子の微量供給に最適！

### 3. アジアを中心としたグローバル展開

#### 生産拠点: タイ・アユタヤ県バーンパイン郡 レイケンタイランドCO.,LTD



- 竣工: 2013年7月
- 従業員: 7名

プラスチック成形機周辺水機器装置等の需要拡大を見込み、東南アジア、東アジア地域の更なる業容拡大を図る

#### 生産拠点: 中華人民共和国・上海 川田機械製造(上海)有限公司



- 竣工: 1998年10月
- 従業員: 274名
- 売上高: 1,889百万円

1997年7月現法設立、1998年10月完成。プラスチック成形加工機周辺機器の本格生産開始。2002年9月第2工場完成  
2013年12月新工場工事着工、2014年12月竣工予定。土地19,230㎡使用权を新たに取得、竣工後移転予定

#### 生産拠点: インドネシア共和国西ジャワ州 PT. カワタインドネシア



- 竣工: 2011年10月
- 従業員: 26名
- 売上高: 109百万円

2011年4月にPT. カワタインドネシアを設立、プラスチック成形機周辺装置等の生産開始  
中国・上海に続くアジアの生産拠点と位置づけ、今後5年計画でインドネシア、タイ、インド向け生産拠点として拡大を図る

### 3. アジアを中心としたグローバル展開

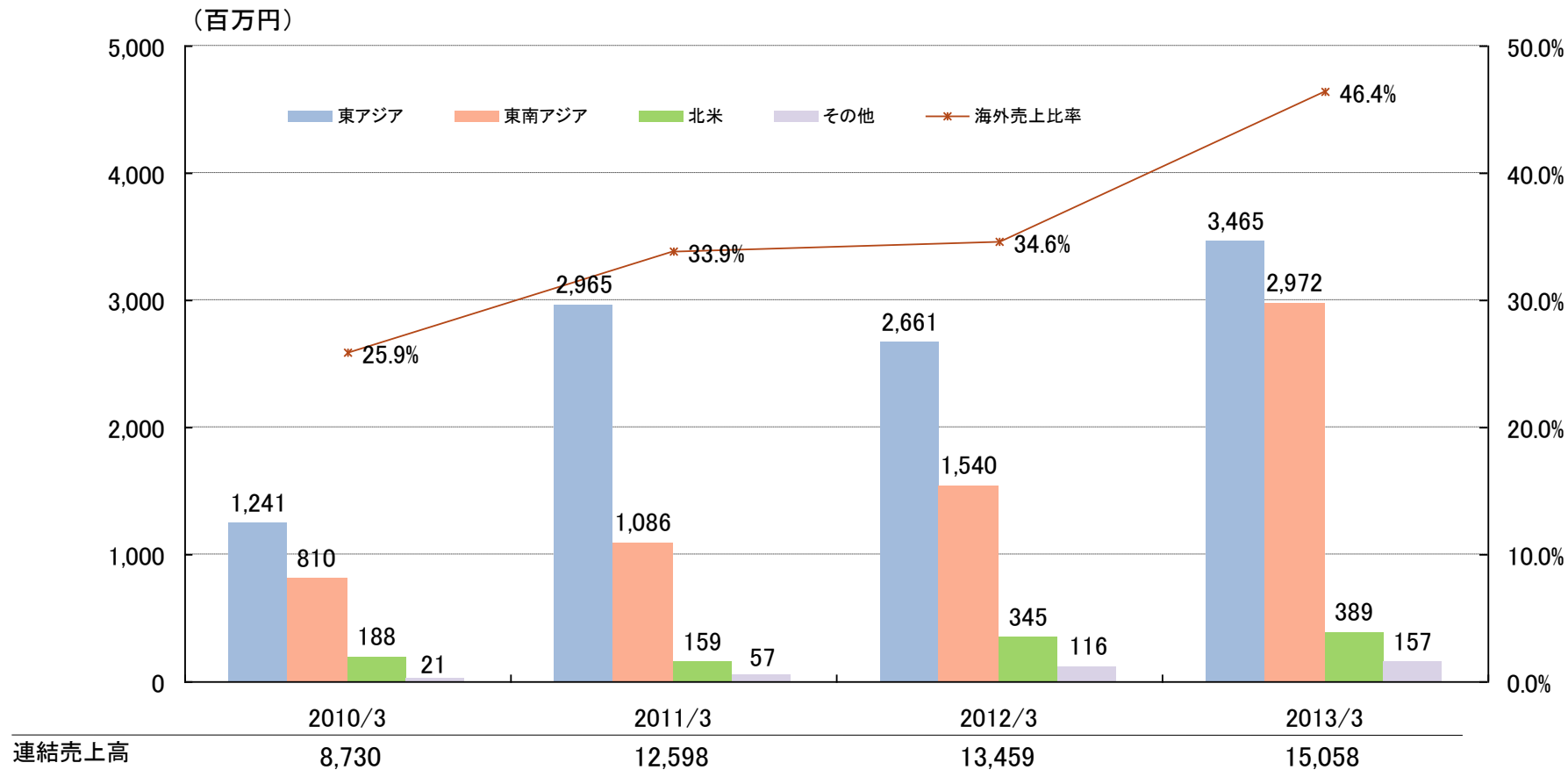
## (1) グローバル展開の歴史

- 取引先の海外工場建設に対応し、1989年9月に初めて海外拠点を設立、以後急速にグローバル化が進展

1989年 9月	米国に現地法人「カワタU.S.A.INC.」を設立。
1989年 9月	米国にコネア社とカワタU.S.A.INC.との合併で「コネアカワタセールス&サービスCO.」を設立。
1989年11月	シンガポール国に現地法人「カワタMFシンガポールPTE.LTD.」を設立。(現「カワタパシフィックPTE.LTD.」)
1993年 9月	マレーシア国に現地法人「カワタエンジMFG.SDN.BHD.」を設立。
1995年 3月	中国・上海市に現地法人「川田(上海)有限公司」(2011年5月に「川田機械製造(上海)有限公司」と合併)を設立。
1996年 8月	タイ国に現地法人「カワタタイランドCO., LTD.」を設立。
1997年 7月	中国・上海市に現地法人「川田機械製造(上海)有限公司」を設立。
1999年 3月	マレーシア国に現地法人「カワタマーケティングSDN.BHD.」を設立。
2000年 2月	台湾に現地法人「川田国際股份有限公司」を設立。
2003年 1月	中国香港特別行政区に現地法人「川田機械香港有限公司」を設立。
2011年 4月	インドネシア共和国に現地法人「PT. カワタインドネシア」を設立。
2012年 4月	中国・上海市の現地法人「冷研(上海)貿易有限公司」を傘下入り。
2013年 7月	タイ国に現地法人「レイケンタイランドCO., LTD.」を設立。

### 3. アジアを中心としたグローバル展開 (2) グローバル販売実績

- 2010年3月期より海外販売が急拡大、伴に人員数も拡大



(人)

人員数推移	2010/3期	2011/3期	2012/3期	2013/3期
東アジア	237	275	285	286
東南アジア	74	63	68	85
北米	1	1	2	1



## Ⅲ. 決算実績・業績予想



# 1. 2014年3月期2Q決算実績

## 決算概要総括

- コメント

### 売上面

- 中国、東南アジア地域向けが堅調であるが、タイの洪水被害からの復興需要という特殊要因の終息、国内における前年度後半の設備投資案件減少に伴う期末受注残減少が、売上高に影響

### 利益面

- 中国における人件費等諸経費の増加、タイ特需の終息、前年度第2四半期からの新規連結子会社分の販売費および一般管理費の増加等により、営業利益は減少
- 旧大阪工場を譲渡したことによる固定資産売却益102百万円を特別利益に計上



# 1. 2014年3月期2Q決算実績 損益計算書(P/L)(連結)

(単位:百万円、%)

	実績						コメント
	2013/3期2Q			2014/3期2Q			
	金額	構成比	前期比増減率	金額	構成比	前期比増減率	
売上高	7,488	100.0	10.1	7,216	100.0	▲3.6	<ul style="list-style-type: none"> <li>中国・東南アジア堅調</li> <li>タイの洪水被害からの復興需要という特殊要因の終息</li> </ul>
売上総利益	2,180	29.1	23.1	2,250	31.2	3.2	
販売費及び一般管理費	1,682	22.5	16.2	2,020	28.0	20.1	<ul style="list-style-type: none"> <li>中国における人件費等諸経費の増加117</li> <li>前年度2Qからの新規連結子会社分増加133</li> </ul>
営業利益	498	6.7	54.2	229	3.2	▲53.8	
経常利益	472	6.3	73.8	214	3.0	▲54.7	
当期純利益	167	2.2	2.3	178	2.5	6.2	<ul style="list-style-type: none"> <li>旧大阪工場譲渡による固定資産売却益102を特別利益に計上</li> </ul>
減価償却費	75	—	39.0	82	—	9.1	
設備投資額	392	—	277.7	40	—	▲89.8	<ul style="list-style-type: none"> <li>2013/3期2Q:大阪工場建設関連339含む</li> </ul>

# 1. 2014年3月期2Q決算実績

## セグメント別売上高・経常利益(連結)

(単位:百万円、%)

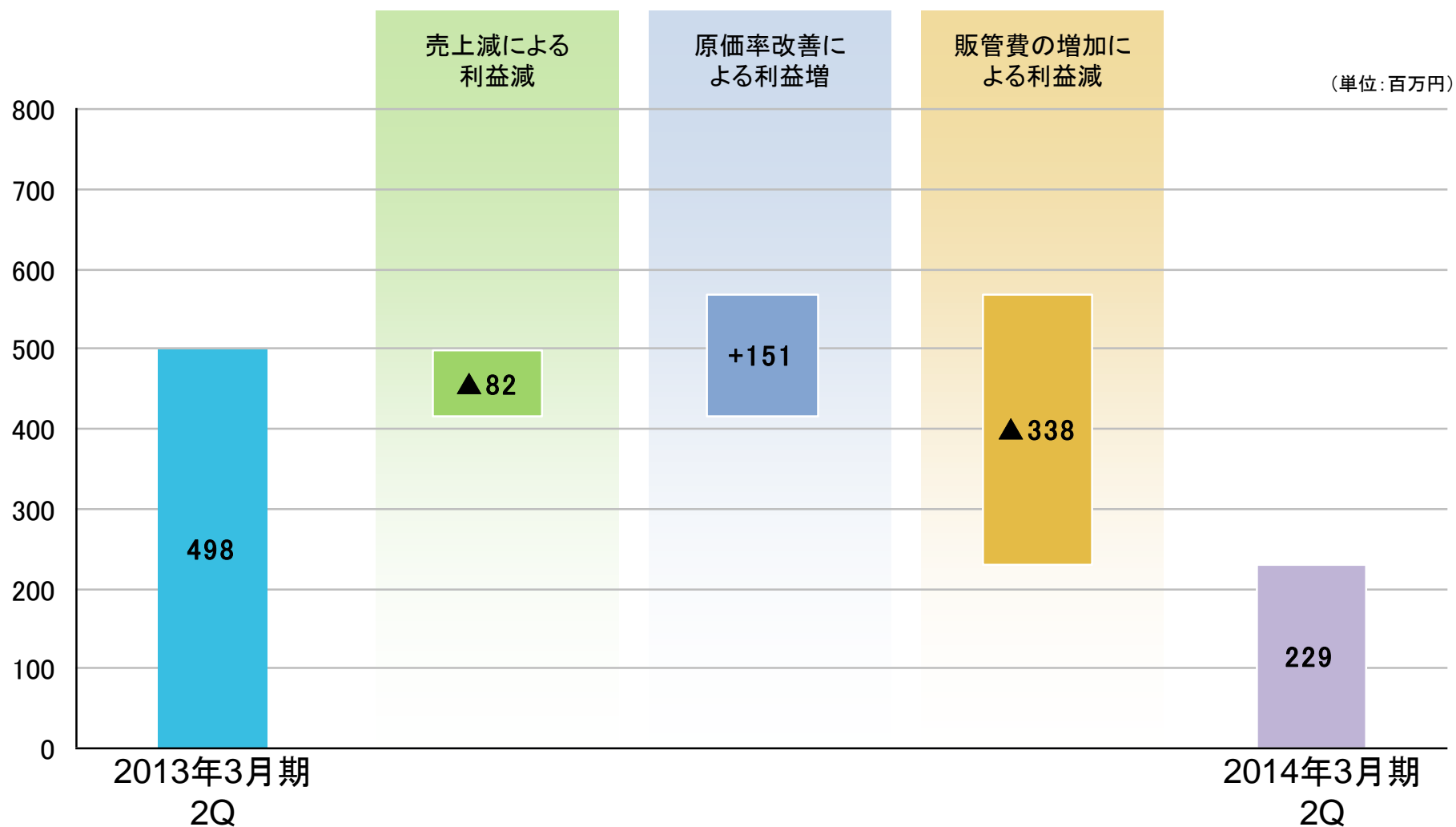
(売上高)	実績						コメント
	2013/3期2Q			2014/3期2Q			
	金額	構成比	前期比増減率	金額	構成比	前期比増減率	
日本	4,994	59.3	▲2.5	4,709	59.3	▲5.7	・前年度後半の国内設備投資案件減少による影響
東アジア	1,883	22.4	24.4	2,179	27.4	15.7	・中国・台湾の需要堅調
東南アジア	1,410	16.7	110.9	882	11.1	▲37.5	・自動車関連を中心に需要は堅調ながらタイの洪水被害からの復興需要の終息
北米	133	1.6	43.2	173	2.2	29.8	

(セグメント利益) (経常利益)	実績						コメント
	2013/3期2Q			2014/3期2Q			
	金額	構成比	前期比増減率	金額	構成比	前期比増減率	
日本	262	49.5	▲2.2	35	16.6	▲86.5	・売上減に伴う利益減、販管費の増加、海外子会社からの受取配当金の減少
東アジア	156	29.6	42.2	149	69.8	▲5.0	・中国における人件費等諸経費の増加
東南アジア	118	22.3	168.2	23	11.2	▲79.8	・売上減に伴う利益減
北米	▲7	▲1.4	—	5	2.4	—	

(注) 構成比は連結調整額を除いて算出

# 1. 2014年3月期2Q決算実績 営業利益増減要因(連結)

- 原価率は改善するも、販売管理費の増加に伴い、営業利益は前年度比減



# 1. 2014年3月期2Q決算実績 貸借対照表(B/S)(連結)

(単位:百万円)

	2013/3期	2014/3期2Q	増減額	コメント
流動資産	10,598	10,688	90	
現金及び預金	3,772	3,648	▲123	
受取手形及び売掛金	4,660	4,804	144	} 主に中国での売上高増加によるもの
たな卸資産	1,825	1,935	109	
固定資産	3,972	3,885	▲86	
有形固定資産	2,916	2,817	▲99	・旧大阪工場土地 ▲85
無形固定資産	456	495	38	
投資その他の資産	598	573	▲25	
資産合計	14,570	14,574	3	

	2013/3期	2014/3期2Q	増減額	コメント
負債合計	8,738	8,324	▲414	
(有利子負債残高)	4,914	4,443	▲481	・短期借入金 1,740 → 1,379 (▲361)
純資産合計	5,832	6,250	417	・当期純利益 178、為替換算調整 ▲10→236(+247)
負債純資産合計	14,570	14,574	3	

# 1. 2014年3月期2Q決算実績 キャッシュフロー計算書(連結)

(単位:百万円)

	2013/3期2Q	2014/3期2Q	増減額	コメント
営業活動によるキャッシュ・フロー	369	62	▲306	<ul style="list-style-type: none"> <li>法人税等の支払額 ▲98 → ▲158</li> <li>有形固定資産売却益 ▲1 → ▲102</li> </ul>
投資活動によるキャッシュ・フロー	▲746	292	1,039	<ul style="list-style-type: none"> <li>有形固定資産取得による支出 ▲392 → ▲40</li> <li>有形固定資産売却による収入 1 → 279</li> <li>連結の範囲変更を伴う子会社株式取得▲351→ —</li> </ul>
財務活動によるキャッシュ・フロー	335	▲575	▲910	<ul style="list-style-type: none"> <li>短期借入金の増減 439 → ▲402</li> </ul>
現金及び現金同等物に係る 換算差額	76	96	19	
現金及び現金同等物の増減額	34	▲123	▲158	
現金及び現金同等物の期首残高	3,326	3,769	443	
現金及び現金同等物の期末残高	3,360	3,645	284	

## 2. 2014年3月期実績予想

# 損益計算書(P/L)予想(連結)

(単位:百万円、%)

	実績			予想			コメント
	2013/3期			2014/3期			
	金額	構成比	前期比増減率	金額	構成比	前期比増減率	
売上高	15,058	100.0	11.9	14,700	100.0	▲2.4	<ul style="list-style-type: none"> <li>タイの洪水被害からの復興需要という特殊要因の終息</li> <li>中国、東南アジア堅調も、減速傾向</li> </ul>
売上総利益	4,490	29.8	28.4	4,437	30.2	▲1.2	
販売費及び一般管理費	3,783	25.1	27.9	3,997	27.2	5.7	<ul style="list-style-type: none"> <li>中国における人件費等諸経費の増加</li> <li>前年度2Qからの新規連結子会社分の増加</li> </ul>
営業利益	707	4.7	30.9	440	3.0	▲37.8	
経常利益	682	4.5	48.2	390	2.7	▲42.9	
当期純利益	192	1.3	▲39.9	270	1.8	39.9	<ul style="list-style-type: none"> <li>特別損益 ▲108 → 103</li> <li>法人税等計 316 → 193</li> </ul>
減価償却費	163	—	47.5	164	—	1.6	
設備投資額	449	—	▲27.1	612	—	36.2	<ul style="list-style-type: none"> <li>2013/3期: 大阪工場建設関連339含む</li> <li>2014/3期: 中国新工場建設532見込む</li> </ul>



## IV. 今後の経営戦略

1. 事業環境
2. 基本方針
3. 中期経営戦略
4. 成長戦略
5. 効率化戦略
6. 中期経営計画 目標数値

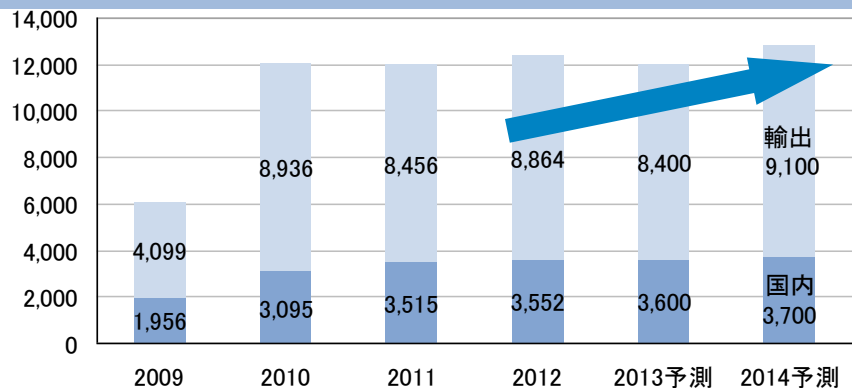


# 1. 事業環境

## (1) プラスチック成形機器の需要動向

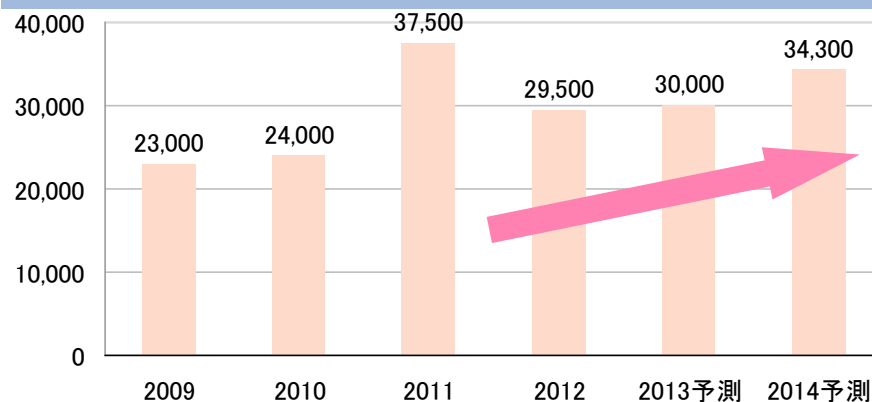
- 国内においてプラスチック製品は飽和状態、製品生産者のターゲットは海外の消費市場へ
- 海外のプラスチック産業は新興国の経済成長と内需の拡大により今後も発展
- 押出成形機、射出成形機の出荷台数は横ばいから微増を予想

射出成形機の出荷台数推移と予測



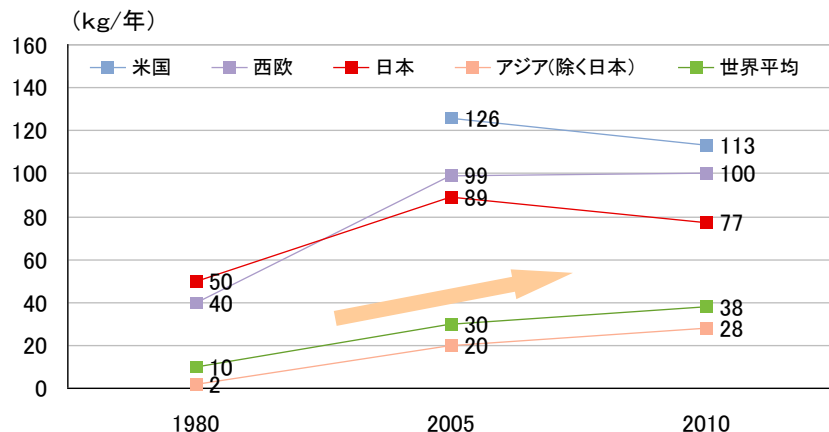
出所：日本産業機械工業会、日本プラスチック機械工業会調査よりカワタ作成

押出成形機の需要推移と予測



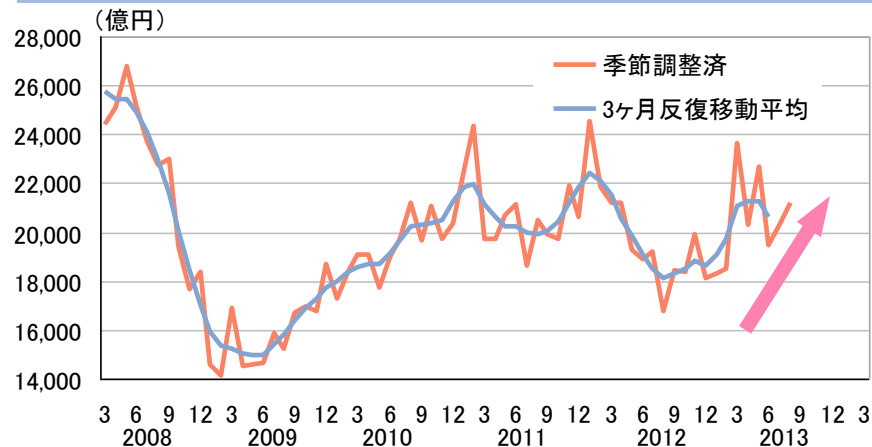
出所：経済産業省機械統計よりカワタ作成

世界での1人あたりプラスチック消費量推移



出所：日本プラスチック工業連盟 ※米国の1980年はデータなし

機械受注の推移



出所：内閣府

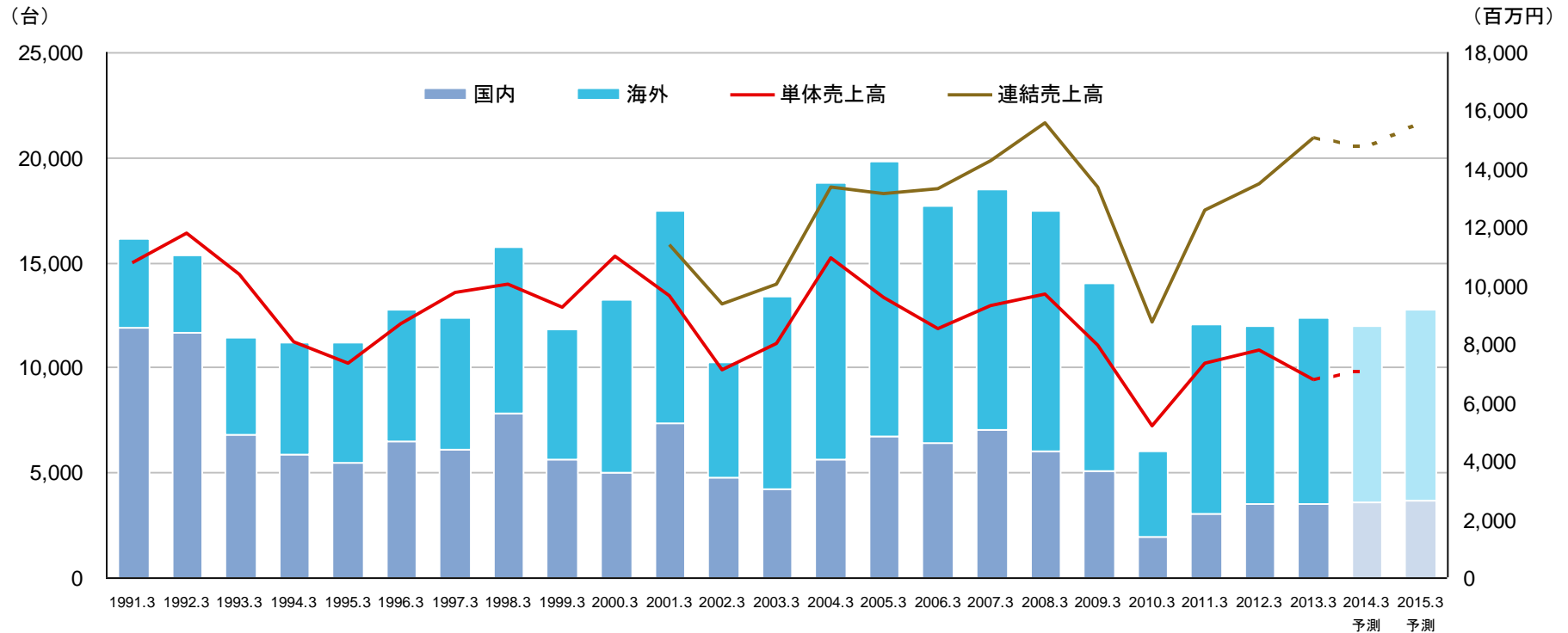


# 1. 事業環境

## (2) 射出成形機出荷台数と売上の推移

- 射出成形機出荷台数と当社売上高には正の相関性あり

射出成形機出荷台数と売上の推移



期間	1991.3	1992.3	1993.3	1994.3	1995.3	1996.3	1997.3	1998.3	1999.3	2000.3	2001.3	2002.3	2003.3	2004.3	2005.3	2006.3	2007.3	2008.3	2009.3	2010.3	2011.3	2012.3	2013.3	2014.3 予測	2015.3 予測
国内	11,890	11,714	6,825	5,904	5,509	6,489	6,111	7,811	5,623	5,027	7,367	4,791	4,194	5,678	6,721	6,464	7,070	6,042	5,073	1,956	3,095	3,515	3,552	3,600	3,700
海外	4,273	3,641	4,654	5,296	5,674	6,288	6,259	7,980	6,245	8,250	10,111	5,484	9,211	13,150	13,075	11,257	11,431	11,415	8,935	4,099	8,936	8,456	8,864	8,400	9,100
合計	16,163	15,355	11,479	11,200	11,183	12,777	12,370	15,791	11,868	13,277	17,478	10,275	13,405	18,828	19,796	17,721	18,501	17,457	14,008	6,055	12,031	11,971	12,416	12,000	12,800
単体売上高	10,783.7	11,804.4	10,410.5	8,057.3	7,325.5	8,666.2	9,780.4	10,040.6	9,277.0	10,992.1	9,659.5	7,082.8	7,992.5	10,925.3	9,586.4	8,514.6	9,296.5	9,699.0	7,961.4	5,213.6	7,325.7	7,783.7	6,780.7	7,100	-
連結売上高											11,374.3	9,343.0	10,041.4	13,352.8	13,139.6	13,344.8	14,295.8	15,600.6	13,361.4	8,730.5	12,598.1	13,459.8	15,058.9	14,700	15,600

出所：日本産業機械工業会、日本プラスチック機械工業会、カワタ決算書類

## 1. 事業環境

# (3) 各エリア成形機周辺システム需要動向

- 新興国での需要拡大を背景に、インドネシア・中国・タイで生産を拡大するため、設備投資を増強

### 東アジア

- 中国：海外の対中投資は減少傾向にあるものの輸出は拡大。自動車、家電、IT関連を中心に内需も堅調
- 韓国：IT関連を中心に韓国企業の海外競争力が高まっており、受注は好調
- 台湾：導光板やレンズ等、高付加価値産業の受注が好調

### 日本

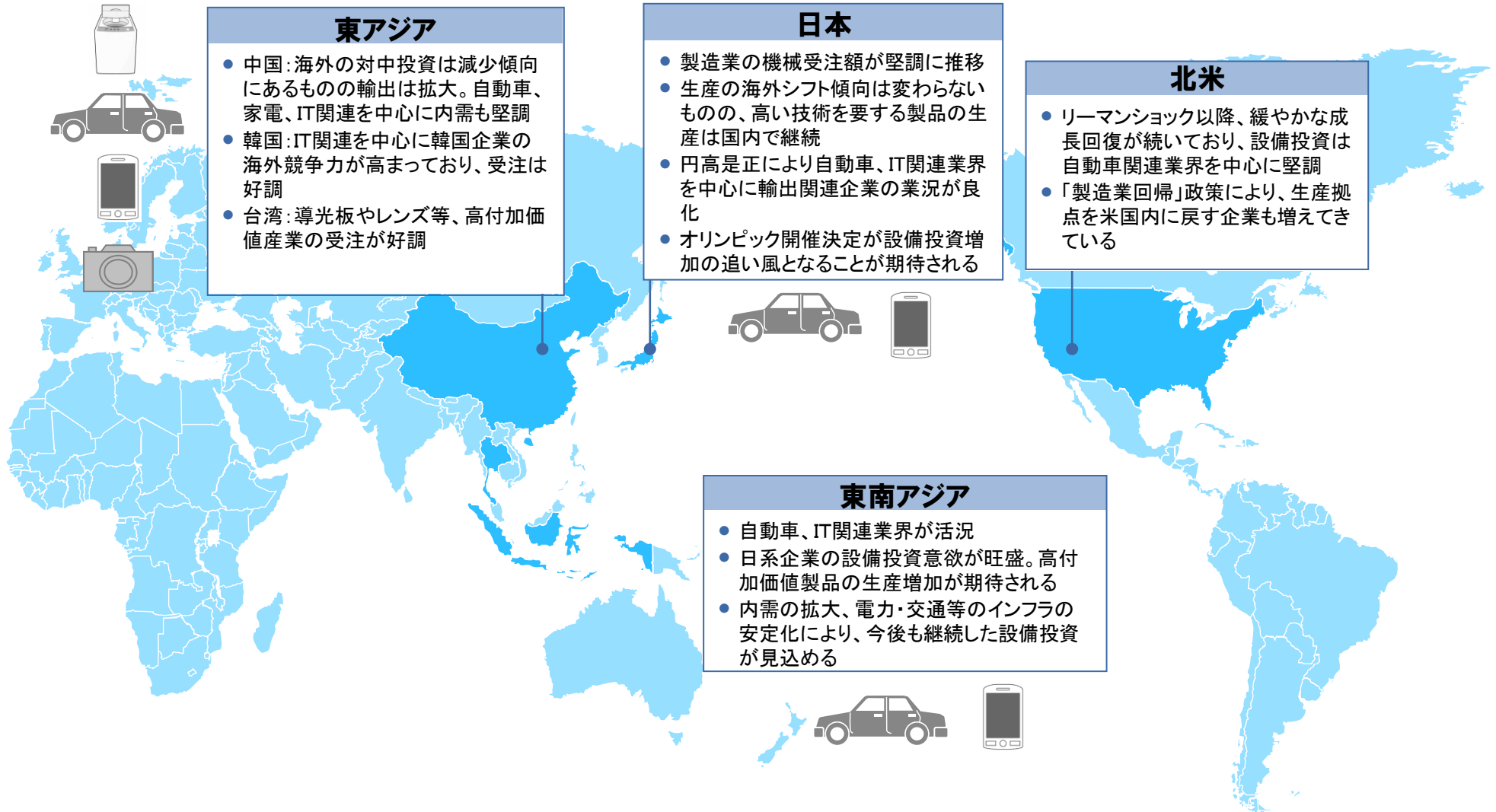
- 製造業の機械受注額が堅調に推移
- 生産の海外シフト傾向は変わらないものの、高い技術を要する製品の生産は国内で継続
- 円高是正により自動車、IT関連業界を中心に輸出関連企業の業況が良好化
- オリンピック開催決定が設備投資増加の追い風となることが期待される

### 北米

- リーマンショック以降、緩やかな成長回復が続いており、設備投資は自動車関連業界を中心に堅調
- 「製造業回帰」政策により、生産拠点を米国内に戻す企業も増えてきている

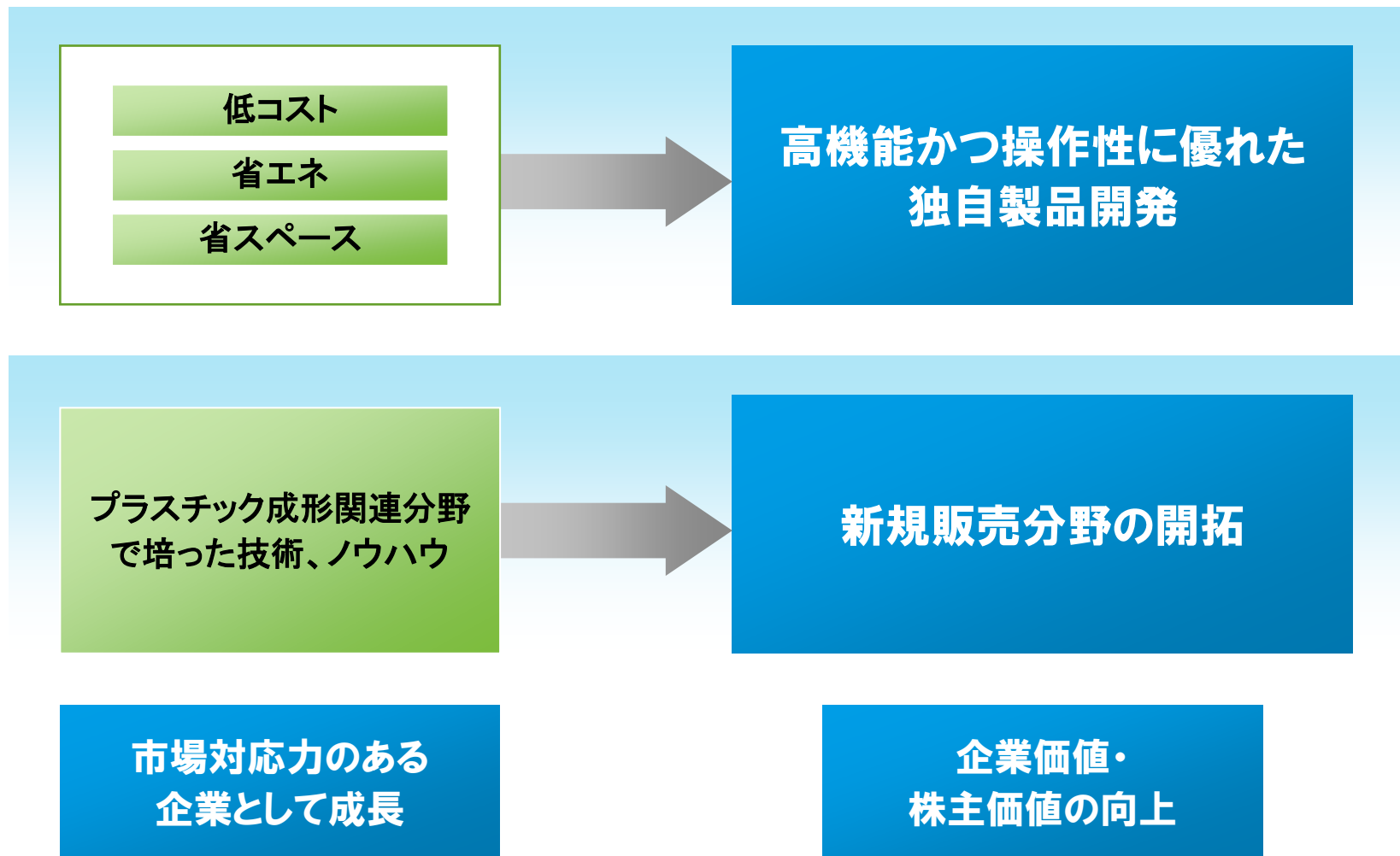
### 東南アジア

- 自動車、IT関連業界が活況
- 日系企業の設備投資意欲が旺盛。高付加価値製品の生産増加が期待される
- 内需の拡大、電力・交通等のインフラの安定化により、今後も継続した設備投資が見込める



## 2. 基本方針

- リーディングカンパニーとして、高機能かつ操作性に優れた独自製品を開発・新技術を世界に発信
- 環境、電池、食品、化粧品等の新規販売分野を開拓・拡大



## 3. 中期経営戦略

---

### 1 マーケットシェアの拡大と収益力の向上

- 顧客第一主義の徹底
- 経費の削減
- 顧客の開拓

### 2 高付加価値製品の開発

- 当業界のリーディングカンパニーとして、高機能かつ操作性に優れた独自製品を開発し新技術を世界に発信し続ける

### 3 グローバル展開・戦略の構築

- グローバル化するユーザーニーズに対応するためグループ企業全体でのミッションおよびシナジー効果を発揮し、総合力向上を図る

### 4 新規事業分野へ経営資源を投下

- プラスチック成形関連分野で培った技術、ノウハウを応用して、環境、電池、食品、化粧品等の新規販売分野を開拓・拡大していく

### 5 経営体質の一層の強化

- コーポレート・ガバナンスの徹底、内部統制システムの強化、人材育成等により、経営体質の一層の強化を図る

## 4. 成長戦略

- マーケットシェアの拡大と収益力の向上

	市場の選択と製品戦略	市場への浸透と製品開発
プラスチック関連市場	<ul style="list-style-type: none"><li>● 二極化（高性能化、低価格化）への対応</li><li>● 製品差別化戦略：高機能かつ高付加価値製品の製造</li><li>● 製品集中化戦略：汎用機および廉価製品の製造</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>● 市場・顧客ニーズに即した製品の開発</li></ul>
新規参入市場	<ul style="list-style-type: none"><li>● 製品細分化戦略：新規参入市場に対応する新製品の製造</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>● プラスチック成形関連分野で培った技術（要素技術）・ノウハウによる応用製品の開発</li></ul>

## 5. 効率化戦略

---

**グループ企業全体で最適な経営資源の配分を図る**

**グループ企業戦略により、全体での業務プロセスの見直し、  
共通購買等により更なるコスト効率化を図る**

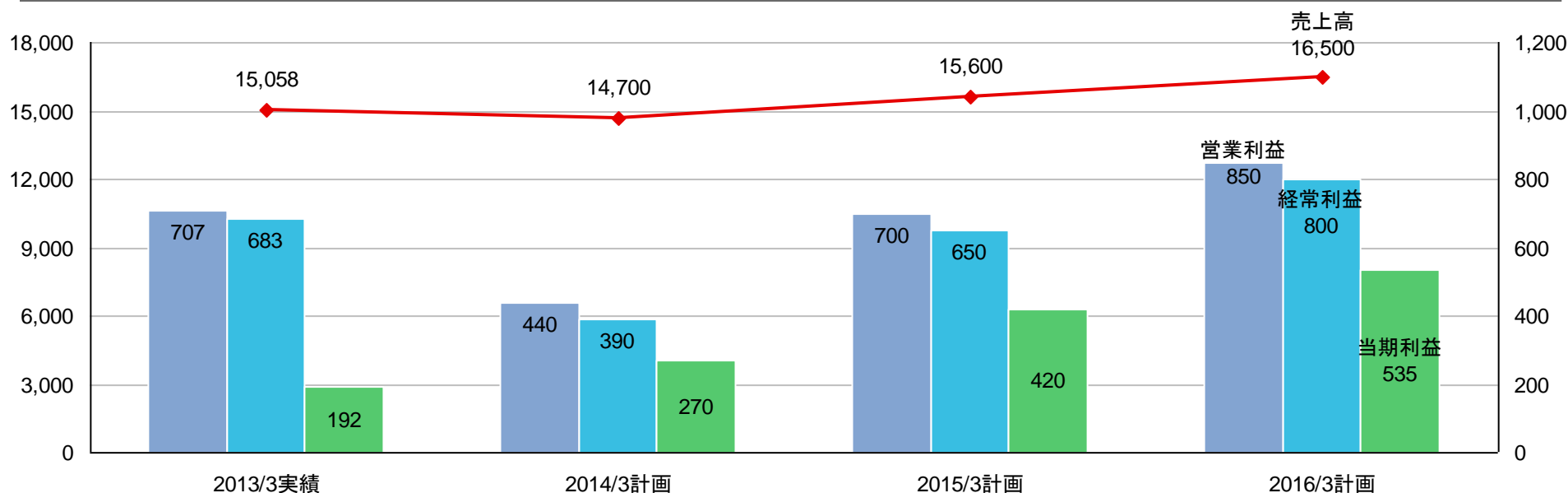
**コスト意識を常に念頭に置き、海外調達等、更なる原価低減  
および経費削減による効率化を図る**

## 6. 中期経営計画 目標数値

- グローバルな需要拡大に対応し、グループ全体での経営資源の効率的運用を図る
- 2014年12月に竣工する中国新工場など新たな設備投資・人員増強により生産能力が向上
- 高付加価値製品、新規分野を中心とした市場拡大および営業利益率向上への寄与

(単位:百万円)

	2013/3実績	2014/3計画	2015/3計画	2016/3計画
売上高	15,058	14,700	15,600	16,500
営業利益	707	440	700	850
営業利益率	4.7%	3.0%	4.5%	5.2%
経常利益	683	390	650	800
当期利益	192	270	420	535



# 本日はありがとうございました

## 粉体・粒体加工技術をベースに 新素材開発の未来を切り開く

IRに関するお問い合わせ先

株式会社カワタ 総務人事部

電話: 06-6531-8211

e-mail: ir6292@kawata.cc

### 将来見通し等に関する注意事項

本資料につきましては投資家の皆様への情報提供のみを目的としたものであり、売買の勧誘を目的としたものではありません。

本資料における、将来予想に関する記述につきましては、目標や予測に基づいており、確約や保証を与えるものではありません。また、将来における当社の業績が、現在の当社の将来予想と異なる結果になることがある点を認識された上で、ご利用ください。

また、業界等に関する記述につきましても、信頼できると思われる各種データに基づいて作成されていますが、当社はその正確性、完全性を保証するものではありません。

本資料は、投資家の皆様がいかなる目的にご利用される場合においても、お客様ご自身のご判断と責任においてご利用されることを前提にご提示させていただくものであり、当社はいかなる場合においてもその責任を負いません。